

都市広場の文化的社会的機能

肖 溪 *Cathy Xiao*
中国人間居住委員会常務副秘書長

田梅 朋子 *Tomoko TAUME*
(財) 福岡アジア都市研究所研究主査

唐 寅 *Tang Ying*
(財) 福岡アジア都市研究所主任研究員

要旨：都市広場は社会生活と密接な関係にあり、集会や祝祭典、スポーツやレクレーションなど多くの文化的社会的機能を与えられ、都市における社会の進歩や文明発達のために重要な役割を果たしている。本稿は、都市広場が社会的進歩と文明発達に果たす役割と機能を整理し、中国の都市広場発展の現状と問題点を分析し、社会管理の視点から改善策を提案する。

■キーワード：都市広場、広場文化、都市広場の管理

1. はじめに

急速な経済成長と都市化の恩恵を受け、いま、中国の地方都市では中心部や目抜き通りに目を見張るような超大スケールの都市広場が次々と作られている。経済急成長は地方政府に潤沢な資金力をもたらし、都市化の加速は市街地域を拡張させているからだ。しかし、それは同時に農村地域と農村人口を短期間にかつ大量に都市に囲い込むことでもあるし、いわゆる「農村・農民意識」による影響も一方では強まるることを意味している。伝

統的な封建専制時代の名残や色合いがあちこちで表れているゆえんである¹⁾。

City Beautiful Movement（都市美運動）を彷彿させるような「都市化粧運動」が中国各地で推し進められ、都市芸術建設のモデルとして都市広場のもつ空間美を追求する動きが強まる中、権威誇示のシンボルになりがちな都市広場に対する批判も増えている。地域住民は親しみを持てないような都市広場に対し、次のように揶揄している。「下を見ればレンガの石畳（芝生を含む）、前を見れば噴水があり、空を仰げば彫刻がある。石段に旗竿、すべてのものが左右対称で、ゴールは行政機関だ」（写真1）。

人口密度の高い中国の都市では、都市広場は本来、都市の中で最も魅力ある外部公共空間の一つとして多くの地域住民を惹きつける場所であるはずだ。ここではさまざまな出会いや交流を行うこともできるし、スポーツやレクレーションを楽しむこともできる。都市広場はまさに地域住民の生活を構成する一部として、文化活動の一端を担いながら、都市の文明度を高める効果がある。

近年、都市空間計画と都市設計の立場から都市広場の建設を模索する動きが多くみられるが、都



写真1 広東省四会市の広場風景

市文明を育み、それを現す都市広場の持つ文化的社会的機能については、まだ認識不足である。本稿は、中国における都市広場建設の歴史的現実的状況を鳥瞰し、ヨーロッパの都市広場発展史との比較を通して、中国の都市広場が抱える問題の発生要因を析出し、日本などの経験も参照しながら、特に都市広場の持つ文化的社会的機能を中心に、都市管理の視点から、ヒューマニズムと社会文化面における発展への道を提示したい。

2. 都市広場建設の現状と問題

2.1 都市広場建設の背景

新中国成立（1949年）初期、政府は都市の大規模建設を実施し、同時に旧ソ連のモデルを採用して個々の都市に対する機能区分を行った。当時は主として国全体の生産力と総合国力の向上を目指すものであって、都市建設において広場は都市の構成要素としてあまり重視されることもなく、わずかに行政府の建物や市中心部の主要道路集結地に行政広場や交通広場のようなものが作られただけであった。

改革・開放（1978年）以降、生活水準の向上に伴い、人々のライフスタイルも大きく変化し、衣食足りてから、人々の関心は次第に美味しく、楽しく、美しく、そして快適さを求めるようになった。それに伴い、各地では都市の公共空間の在り方も次第に注目されるようになった。



写真2 上海人民広場にある音楽ホール

1950～70年代に作られた広場の多くは、政治活動の場として設計され、利用者の利便性やヒューマニズムに対する配慮はなされなかった。一方、1980年代以降に造成された広場は、社会生活の重心が移行したため、以前のような単一な政治活動中心のものから、多元的な商業活動と社会生活を中心としたものへと変化し、人々の需要がより考慮されるようになった。広場の空間設計も、スケールが小さく閉鎖的なものからスケールが大きく、オープンスペースで迫力に満ちたものへと発展し、政治集会だけでなく、儀礼祭典の需要にも応えられるようにした²⁾。

上海市中心にある人民広場の変容は典型例である。文化大革命時代に100万人集会が開かれていた大広場に芝生が敷かれ、博物館、オペラハウス、地下商店街が次々と建設され、地域住民や来訪者が自由に広場で集まり、散策し、生活の味わいに富んだ都市広場へと次第に変容していった（写真2）。ただ、その時期の都市広場は全国的にまだ少数であって、それに対する注目度もあまり高くなかった。

1990年代半ば以降、地方都市の急速な拡大に伴い、都市広場建設をめぐる問題は顕在化するようになった。都市人口の急増、建築物の高層化と高密度、交通渋滞と環境悪化など、地域住民の仕事や生活環境を脅かす問題はいっそう深刻化してきた。一方、物質面での生活水準のさらなる向上に伴い、人々のライフスタイルも大きく変化し、生活環境や空間環境に対してはよりレベルの高いものを求めるようになった。

このような背景のもと、都市広場の持つ大衆性、親和性、象徴性への注目が急速に高まり、都市広場はこれまでになく都市計画の重要事項として取り上げられ、全国各地で都市広場建設のブームが沸き起こり、社会の各方面からも幅広い関心を集めようになった³⁾。

2.2 都市広場建設の主要問題

中国各地で起きている都市広場建設をめぐる問題は極めて複雑多様であるが、大きく分けて下記の3種類にまとめることができる。

(1) 広場の面積が広すぎ、空間的開放性が乏しく、人に優しくない

レクリエーション活動は人々の日常生活のなかで心身をリラックスさせ、生活を楽しむ行為であるが、そこで必要なのは人に優しい空間環境である。しかし現状では多くの都市広場はひたすら大型化を追求する傾向にあり、却って利用者を遠ざけてしまっている。

例えば、広東省四会市は人口わずか12万人の地方都市だが、「アジア稀有」の別名を持つ大広場を造成し、面積23万m²、最大で46万人も収容できる。一方、鳳揚げで有名な山東省濰坊市には、北京の天安門広場をも凌ぐ46万m²の大広場がある(写真3)。

人に優しいスケールは、公共空間を構成する基本要素であり、公共空間に「人間味」を持たせてこそ、魅力ある公共空間となるのである。

広場の面積が広すぎる問題だけでなく、広場に広い芝生が敷かれ、中には通路もほとんど設けられていないがために、人々は広場に入れないところも多い。一面の緑が却ってそこに来た人をその外へと遠ざけ、見ることはできても触れることができなくしてしまう。

(2) サービスを提供する施設設備や機能が不備である

広場は多種の機能を兼ね備えた生活サービスを提供する場所として考えた場合、そこを訪れる人々の多様な行動ニーズに応え、利用者がここで各種サービスを速やかに得られるようにしなければならない。

しかし現状では都市広場に必要とされるサービス施設設備や機能は完備されているとは言い難い。人々の需要を考慮しておらず、公衆トイレやトレーニング機器だけでなく、腰掛けベンチや電話ボックス、雨避け場所すら整備されていないことが多い。こうしたことは、広場の持つサービス機能を低下させるだけでなく、広場に期待されている快適性や魅力も引き下げてしまう(写真4)。

上海五角場地区は上海の副都心としての美名を持つが、そこの中央広場は池と緑地によって三分



写真3 山東省濰坊市の中央広場



写真4 黒竜江省大慶市の広場

の一の面積も取られてしまい、しかも腰掛けベンチや居心地よい休憩場所もなく、来訪者は目の保養を得られるほかは慌ただしく離れるしかない。

(3) 維持管理のレベルが低い

都市広場は設計段階及び完成直後は比較的高い基準に達していたが、その後時間が経つにつれ、維持管理が当初予定されていたレベルから低下はじめたことがしばしばある。多くの都市広場は、建設に比べて維持管理面での不備が目立ち、建設を重視するが維持管理を軽視する現象は依然として存在している。

例えば、広場の一部の標識や施設に損壊があつてもすぐには修復されず、広場全体の景観破壊を招いている現象がよく見かける。公共秩序が乱れている広場もある。さらにひどい場合には車両が乱雑に停車し、駐車場と化している広場もある。一部の都市広場では住民らによる私物化行為が横

行しても、それを咎める者がいない。

都市広場が抱える諸問題の根源は、「人」の問題に尽きると言えよう。都市広場の主題は「人」であり、都市広場の計画設計と建設において「人」を中心に取り組まなければ、必然的に「形式化・空洞化」に陥り、広場の持つ文化的機能と社会的機能が失われ、地域の持つ歴史文化や生態、景観などを体現するのも難しくなる。

3. 都市広場建設における問題発生の要因

中国では、広場は都市の歴史的文化的背景から乖離し、存在する周囲の環境から抜け出てしまい、全体的な空間尺度のバランスを失いながら、独自性を持たないまま増え続けている。大都市はヨーロッパの面影を追い求め、地方都市は大都市を追い求め、お互い模倣し合い、張り合った結果、どこの都市広場も大同小異になってしまう。政府指導者の意向が都市広場の建設を決定し、その結果、広場の本質である Agora（集まる）とかけ離れてしまい、地域住民との距離が発生している。

かかる諸問題発生の背景には、ヨーロッパに比べ、中国における広場文化の未発達が大きな要因と考えられる。

3.1 ヨーロッパにおける都市広場の発達

ヨーロッパに起源する広場の歴史が長く、都市空間形態の核心として、大衆活動に「都市の応接間」としての機能を果たしてきた⁴⁾。

古代ギリシャの広場は人々の宗教と自由交流の場であった。古代アテネにおいて、神殿や彫像の増加、人々の交流や文化活動の頻繁化に伴い、都市の中心であったアテネアクロポリスの空間が狭くなつたため、その行政機能は次第にアクロポリスの麓にあるアテネ広場周辺へと移動していく。後に商業、司法、行政、宗教などの活動も生まれ、アテネ広場は次第にアテネアクロポリスに取って代わり、都市の中で最も重要な公共活動の場所となつた。

これと似ているのが、古代ローマの都市広場である。古代ギリシャの影響を受けて、世に名高い共和国広場も次第に都市社会、政治・経済活動の

中心を形成していった。ローマ市民はここで大いに思想的薰陶を受け、祝祭典を開き、宗教や交易活動を行っていた。

中世の広場は宗教、都市行政、商業という三大機能を持っていたが、宗教機能がその主要な地位を占めていた。中世ヨーロッパには統一された強大な教権主義があり、教会はその巨大な体積と想像を超える高さで都市の中心位置を占め、都市の配置をコントロールしていた。教会前に附設された中世の広場は、人々の現実生活と宗教精神の結合を体現していたのである。

ルネサンス期になると都市広場が重要視され、歴史価値の高い都市広場が数多く建設された。この時期の広場設計はルネサンスの思想的特色を強調し、人々の願いを重要視している。ヒューマニズムの美意識、透視法と比例法を用いて、視覚的秩序と荘厳雄大さを追求していた。例えば、フィレンツェのサンティッシマ・アンヌンツィアータ広場やヴェネツィアのサンマルコ広場、ローマキャピトル広場などが代表例である⁵⁾（写真5）。

しかし、17世紀になると、フランスでは古典主義文化が生まれた。専制君主制度の産物として、古典主義は秩序ある組織だった永遠の王権至上主義を体现し、バロック調の都市広場も、フランス都市建設における最も突出した成果の一つとして、長らく影響を及ぼしてきた。



写真5 ヴェネツィアのサンマルコ広場



写真6 北京紫禁城の模型

3.2 中国における広場発展の遅れ

ヨーロッパに比べ、中国では歴史的に都市広場は発達していなかった。かつて存在していた広場はだいたい2種類のものしかなかった。一つは権力者の意志を象徴する宮廷広場であり、もう一つは宗教活動に合わせて自然発生的に誕生した寺院周辺の定期市広場である。

宮廷広場は皇帝が統治を行うための重要な場所である。唐、宋、元、明、清の各王朝時代を経て、宮廷広場の形態が定着した。北京の紫禁城や天安門広場は、中国の宮廷広場を発展させた究極の形態であり、厳格な軸線とシンボルティックな建造物をもって権力の存在を誇示し、その影響力は今日においてもなお絶大である⁶⁾（写真6）。

一方、寺院周辺の定期市広場は、宗教、交易、文化など公共活動の需要に応えるために生まれたものである。ごく一部の広場は寺院や舞台と一緒に建築されるのを除いて、大多数の定期市広場は長期にわたる庶民生活の中で自然発生的に形成されたものである。

寺院周辺の定期市広場はさらに寺院広場と定期市広場の2種類に分けられる。寺院広場は、寺院の前に位置し、宗教的祭祀やその他の祭典活動に使用される。普段、広場の雰囲気はかなり厳肅であるが、縁日の期間中は商業貿易と娯楽活動の場所となり、数多くの観光客や信者が集まり、何種もの機能や作用を果たすことになる（写真7）。



写真7 甘肃省天水市伏羲広場で行われる祭典

一方、定期市広場の誕生は宋代以降である。店舗の分布はそれまでにあった厳格な市街地集中配置方式ではなく、道路に沿って賑やかな商店街を形成していた。この時代から、経済発展に伴い、都市生活において商品交易はますます重要な内容となつた⁷⁾。

封建専制制度が長く支配してきた中国では、都市には王宮や神殿のための広場はあったが、大衆に開かれた眞の公共性を持つ広場は発達しなかつた。

3.3 広場文化の相違から見えたもの

広場は社会生活と密接な関係にある。特定の空間形式や場所に特定の行動や活動が生まれる。逆に、人々の行動や活動も場所や空間形式に対し能動的な作用を及ぼすことができる。そのため、公共空間としての都市広場は、多くの社会的文化的機能を与えられており、社会的文化的に蓄積され、象徴的意義を持っている。こうしていわゆる広場文化というものが形成される。

社会発展の変遷と関連して、広場文化には異なる歴史的特徴と地域性がある。例えば、ヨーロッパの都市広場の持つ生活密着性と文化性は、中国の天安門広場が有する強烈な政治的風格とは本質的に異なり、それぞれの文化的歴史的価値観の違いが表れている。

（1）広場の機能

広場の機能は、大規模な祭祀、権力と尊厳の表現、宗教信仰、祝日祭典、商業貿易などのタイプに分けられる。中国とヨーロッパを比較する場合、

これらの機能や作用の強弱の度合において明らかに差異が存在する。

ヨーロッパの伝統的都市広場は歴史的変遷の中で、祭祀や宗教信仰の機能は次第に弱化し、イベントと商業の機能が強化された。さらに広場は都市政治活動の中心だけでなく、市民の公共活動の中心でもあった。

一方中国の伝統的都市広場は、主に統治者のためにあるもので、一般大衆のために真に公共性を有し、公共交流のために開放された空間を建設することはできなかった。為政者は一般大衆が広場に集まるのを嫌い、往々にしてそこから退避することを要求していた⁸⁾。中国の伝統的広場は眞の意味での広場とは言えないゆえんである。

(2) 社会文化

古代ヨーロッパの都市では、独立した市民階層が早くも形成され、理知に基づく政治と司法自治が構築されたので、広場の形成には歴史的必然性があり、広場もその市民社会や市民意識の形成と発展に重要な役割を果たしていた。このような市民意識は広場の発展と拡張に伴い、民主主義の伝統をしっかりと守り伝えてきた。

一方、中国传统社会は封建的集権国家であったため、一般大衆は集会や言論の自由が制限され、国家と地方政治への参加度はヨーロッパに遠く及ばない。したがって、中国の伝統都市においては、政治活動に必要な公共集会のための空間需要も、ヨーロッパの伝統都市ほどなかったのである。

また、一般大衆は「自宅前の雪は除くが、隣の瓦の霜は構わない」(自己中心の意味)という考え方慣らされており、高い壁を築き、自宅と外部世界を隔離させ、家に引きこもり、公共活動の空間である都市広場に関心を示す人は少なかった。四合院のような伝統住居形式は、祖先を敬い崇拜する伝統や忍耐強い民族性を作り出した反面、内向きになりがちで都市広場の発達を妨げる結果をもたらした。

(3) 船来品としての都市広場

中国にとって、都市広場はやはり舶来品であり、伝統的な都市文化において広場は支持されていな



写真8 宁波市の天一広場

かった。都市広場は近年来の中国社会経済の急速な発展の産物である。このことは都市広場の発展の遅れと分布の不均衡を決定づけるものである。人々は都市広場に対する理解や、都市環境と文化伝統の融合、都市広場の建設と管理方式の構築などに対し、科学的合理的な観点に欠けており、そのことが広場文化の構築と都市文明の進歩を大きく阻んでいる(写真8)。

4. 中国特色ある都市広場建設への展望

4.1 公共空間の形成と地域住民の参加

都市広場の設計においては、都市広場の公共空間としての機能を十分に認識すべきである。まずは現地の文化と伝統の特色を体現することが大事である。

いかにして現地に受け継がれた歴史的コンテクストを都市の特色と結びつけるか、いかにしてベースとなる場所の特性を深く理解し、その真髄に基づいて構想を練りあげ、個性的な設計を行うかが、非常に重要なテーマである。流行に安易に同調することは百害あって一利なし。他の地域での成功事例を単純に模倣・複製することも避けるべきである。特色ある広場はその都市の顔であり、地域住民と来訪者が喜んで訪れる「都市の応接間」である。

次に、都市の公共空間は生活の場所であり、実用性と持続可能性を考慮すべきである。計画設計

において、魅力と安全性が保障される環境の中で人々が求めるものをいかに提供するかを考えなければならない。つまり、公共空間における「空間とスケール」、「接近し易さ」、「混合使用と密度」、「環境品質」、「公共施設」、「公共設置物（ベンチや標識など）」、「公共文化活動」などの要素を用いて、いかにして都市広場にヒューマニズムと活力を注ぎ込むかである⁹⁾。

さらに、都市広場建設における地域住民の参加を促し、計画設計過程の全行程への参加を求める必要がある。都市広場の受益者として、都市広場建設にかかる政策決定への住民参加は、広場の設計をより実用的、より人間性のあるものにすることが可能となり、都市発展の長期的需要に応えることもできるようになる。

ヨーロッパの都市建設では、投資者、設計者と使用者が共同で設計に参加し、三者ともに否決権が与えられることもある。このようにして磨き上げられた作品だけが多くの人々に歓迎されることになるのであろう。中国では、一部の都市建設においてすでにこのような兆候も現れているが、今後はよりオープンな政策決定システムへと改善されるべきである。

最後に、文化活動の主体として、地域住民が自

発的に組織した日常的な活動が広場文化を構成する主な内容であり、行政が企画した各種の文化活動はそれを補助する範囲に止めるべきである。地域住民の自主性を尊重し、住民参加の程度を高めていくことは都市文化の発展に寄与するだろう（写真9）。

4.2 土地資源の有効利用

中国の都市計画において広場が占める部分は大きい。土地資源はますます貴重になる現在、限られた空間の中で公共利益を最大限に創出することが都市建設のめざすべき方向である。ここでは日本の経験が大いに参考になる。

東京には日本の人口と財力が集中し、非常に混雑している。半径60kmの東京都市圏に全国総人口の26%も集中しているが、面積はわずか全国土地面積の3.6%に過ぎない。江戸時代からすでに世界最大都市の一つであったものの、東京の地形条件は決して恵まれるものとはいはず、エリア内には傾斜や起伏が多い。東京の住宅価格は非常に高く、家屋は密集し、人々の居住空間は相対的に狭い。

しかし東京都内の公共空間は非常に多く建設されている。その代表的なものはエリア全域に分布する6,500箇所にも上る大小の広場に相当する公園である。上野公園、代々木公園、新宿御苑など、芝生緑地を有し、地域住民や来訪者の憩いの楽園となっている。



写真9 四川省雅安市の年画広場



写真10 東京お台場の広場風景

住宅地に隣接する公園は、住民の憩いの場所であるだけでなく、地震や火災などが発生した場合には、重要な災害隔離帯や避難先となるのである。

実用性を重視する日本人は、例えそれがヨーロッパ文明の象徴であっても、華美で非実用的な巨大広場を求めたりはしなかった。日本はヨーロッパ文明の核心部分のみを吸収したと言える（写真10）。大都市の公共空間はイコール大広場ではない。特にアジアの都市においては、巨大な中心広場の建設が流行するわけではない。

都市人口の急速な増加に対し、都市が絶えず拡張し続けている中国の都市にとって、用地節約型の都市広場建設は、都市の安全や都市環境、居住快適度及び都市の持続可能な発展などの面において重要な意味を持っている。世界に長く存在していた伝統文化にとっては、こうした計画方式は必要であり、現代の都市文化の発達と成熟のための基礎を築くためでもある。

4.3 広場の効果的な維持管理

都市広場の維持管理は、結果的に良好な生活環境と投資環境を作り出し、良好な都市イメージを樹立することができる。

そのため、まず求められるのは、「人を中心とする」原則を堅持し、住民サービスの観点に基づく有効な自己監督システムの構築である。

次に、広場の維持管理は地方の特色を強く押し出すべきである。都市広場は共通性と個性の集合体である。都市広場は、民間性を備え、地方の特色と地方独自の文化を強く押し出し、広場の吸引力と都市観光の魅力を増強させるべきである。

第三に、都市広場の管理は、イノベーション意識を提唱し、至る所に市民の行動スタイルや感情を体现し、最大限に人に対する関心を表現するようにするべきである。「生命至上、生態優先」の発展理念に基づいて、広場全体のイメージにマイナス影響を及ぼさないことを条件に、一定数の営業施設を設け、利用者の利便性を高めると同時に、広場に直接的な経済効果をもたらす方策も考えるべきである。

第四に、広場の規模、サービス対象、維持管理

人員の構成等、広場の維持管理を左右する重要事項を把握し、突発的な事項に対する措置を制定し、各種管理システムの改善を図る努力は制度化されなければならない。

4.4 特色ある都市広場文化の形成

広場文化は、広場建設の精神的中核である。都市の文化と特色を人々に示すために、都市広場は広場文化の持続可能な発展システムを構築すべきである。

広場文化の外観はその広場の設計にあり、シンボル性だけでなく、周辺環境との調和や利便性も要求される。広場文化の内包はその広場の活動に体现される。

広場で行われる活動を規範化し、広場の安全性を確保することは、行政がまず考慮すべき事項である。行政は、協力と指導を行いながら、安全保障措置を提供し、各種活動の自由な発展を促進すべきである。

具体的には、各種のプロやアマチュア演芸関係者による専門的優位性を十分に發揮させ、学校や演芸活動団、文化施設・講座の講師などの人材を活用し、企業、学校、地域の演芸団体を育成し、広場文化活動の展開と芸術養成指導作業を結びつける。好奇心溢れる地域住民の初期参加を促し、次第に強い興味を抱かせ、熱中するように指導する¹⁰⁾。

そのような文化活動に対する指導と規範化管理を図るために、広場文化イベントサービスセンターのような機構を設立し、活動を行う団体やプログラム内容を第三者の立場から審査するシステムも考案されるべきであろう。

5. 結びにかえて—福岡市の「都市広場」について

日中両国の都市間交流がますます盛んになる中、都市広場建設に関する経験交流の需要も高まっている。成功事例として、最後に福岡市庁舎西側広場（愛称：ふれあい広場）の概要を紹介する¹¹⁾。

福岡市中心部天神にある福岡市役所本庁舎横に設置している市庁舎西側広場（愛称：ふれあい広

場)は福岡市を代表する「都市広場」である。1992年の建設以降、都心のオープンスペースとして広く市民に認知されている存在である。

地下に市役所の駐車場を整備(地下3階)し、地上を広場と駐車場出入り口を備え、周辺に植栽などの緑地があしらわれ、全体で面積8,000m²の規模である(写真11)。

建設時の「整備理念」としては、「都心部に位置する貴重な都市空間」との位置づけをなされており、また、市政の拠点である市庁舎と一緒にすることから、その「拠点としてのシンボル」とも位置づけられている。

また、当初より「活力ある都市づくり、市民交流の場としてイベント等に利用できる」ことを意図して建設されており、福岡市主催の様々なイベントが開催されている。都心部の中心にあるという、集客のための利便性を遺憾なく發揮し、福岡市政の施策の周知と活力の創出という行政的な目的を達する大きな要因となっている。

竣工と同じ時期に開始された福岡市主催の「アジアマンス」事業は当初からこの広場を中心として繰り広げられ、主なイベント舞台がこの広場に設置されたことにより、20年間たった現在、市民にこの広場に対するアジア交流のイメージが定着している感が強い。

また、防災面での役割としては、災害時の避難所として指定されており、消防訓練などを行う場所としても活用されている。



写真11 福岡市のふれあい広場(提供:福岡市)

なお、広場にある機能としては、休息のためのベンチ、緑地に休息所、モニュメントが広場を囲むように設けてある。イベントの利用可能な広場の大部分は白地のタイル敷きであり、芝生や土面と異なり、管理を容易にしている。

2004年度に、敷地内にコンビニエンスストア付きの駐輪場が設けられた。これは、福岡市において来庁者の利便性の向上と天神地区の自転車放置防止策を両立させた多目的駐車場として、両方の施設共に24時間年中無休で営業している。

施設建設費をコンビニエンスストアからの賃料で賄う方式は当時の職員のアイデアということであるが、厳しい福岡市財政状況の中、新たな財源確保につながり、市有地に24時間営業のコンビニをいれることは全国でも例のないケースであったため、当時非常に話題となった。この施設が併設されたことにより、広場そのものの機能を大きく向上させるものとなっている。

市庁舎の一部であるという位置づけから、管理は福岡市が市庁舎の一部として管理している。従って、イベントに使用できるのは、市の主催か共催事業であり、公共的な目的を有することが必要であり、上記イベントを行う際には入場料などは一切徴収できないことになっている。

しかしながら、福岡市は2008年に福岡市の主催・共催事業にしか認めてなかった広場のイベント使用について、九州の自治体へ開放する方針を示した。これは広場が市庁舎の一部であることや、緊急事態などへの対応から使用を限定していたものだが、その集客効果や利便性などの評価は高く、九州各地の市町村、県などからの多くの利用要望を背景に、またここ数年高まる九州全体での福岡市の果たす役割を求める風潮から、福岡市としても「九州への貢献」を果たすために、「九州への玄関口」として九州全域の一体的な発展を牽引するために決定したとされている。

ふれあい広場は集客都市福岡市の「応接間」として、地域住民はもちろんのこと、アジアからの来訪者も多く訪れるようになっている。地域の文化を育みながら、外からの刺激や栄養も絶えず吸

収できるようにするために、この広場が果たせる役割への期待が膨らんでいる。

参考文献

- 1) 朱喜剛ほか：計画視角の中国都市運動，中国建築工業出版社，p.10，2009.
- 2) 嚴軍：中国城市広場発展の脈絡，南京林業大学学報，第4卷，pp.80-83，2004.
- 3) 董鑑泓：中国城市建設史，中国建築工業出版社，2004.
- 4) 沈玉麟：外国城市建設史，中国建築工業出版社，1989.
- 5) 李德華：城市計画原理，中国建築工業出版社，2005.
- 6) 周安平：中国古代市肆考略，江蘇経貿職業技術学院学報，第2号，2005.
- 7) 朱里国ほか：中国古代城市広場類型及歴史發展，熱帶建築，3月号，2008.
- 8) 楊寬：中国古代都城制度史研究，上海人民出版社，pp.191-192，2003.
- 9) 朱明建：環境、多重、発展－關於城市建設的幾點思考，武漢交通技術大学学報，第12卷，第2期，1998.
- 10) ヤン・ガイルほか：新都市空間，中国建築工業出版社，2003.
- 11) 福岡市役所資料